

教育課程

本来、建築設計、ランドスケープデザイン、地域計画は、人間が大地の上に居住の場を置く技術という点で通じ合います。

当学科は、学生が折々にこれらそれぞれを学びながら能力開発ができるように、演習主体の教育課程を編成しています。

1学年 基礎演習

「環境の成り立ちとデザインの基礎を知る」
地域の風景や自然物の観察と素描、人体や土地の実測と製図、平面構成、立体造形、コンピューター活用の基礎を学びます。

基礎造形
コンピューター基礎

施工（樹林管理と間伐材利用）
図学・製図
コンピューター製図

2学年 応用演習1

「建物と庭、道、村や町のつくりを考える」
模型制作を通じた工法、構造の学習、人間の動作と生活に必要な空間の広さや設えを確かめながらの設計、フィールドワーク（地区空間解読のための野外調査）などを体験します。

名作建築の図面トレース
インテリアの設計

地区空間を読み解く

木造住宅の設計

歩けるまちのタウンハウス

3学年 応用演習2

「計画、設計の訓練を積む」
各種の建物や屋外空間、村や町の環境を計画、設計する演習に進みます。選択は自身の志向に合わせて自由に行えます。各分野を志向する学生が共同で取り組む演習もあります。

選択 [小学校の設計
エコ・ビレッジの構想

選択 [図書館の設計
コミュニティの計画

エコロジカル・アーキテクチャー

建築・ランドスケープ共同設計

4学年 卒業研究

「デザインの実践へ」

自ら課題を立てて卒業研究（論文、制作）に臨みます。この課題設定と、それまでに学んだことを総合、発展する段階を経て、思考と技術の水準は大きく向上されます。

卒業研究

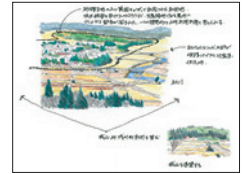
施工（樹林管理と間伐材利用）

建物や屋外空間がどこからどのように材を得てどうできているか学ぶため、本学後背の公園や山林で行う実習です。材料、工法、構造、造形の関係が体感的かつ総合的につかめ、併行する製図演習の理解が助けられます。



地区空間を読み解く

本学近隣の地形、気象、生物、社寺、家屋と庭、道、田畑と水路などを観察、素描、撮影、実測、記述しながら、自然、社会、人間の関係の歴史に沿ってかたちづくられてきた地区空間の成り立ちを読み解く技術を学びます。



木造住宅の設計

最も基本的な建築構法である木造の、小さな住宅を設計します。1学年後期と2学年最初の演習で身につけた製図技術をもとに、材料や構造の検討も含めて自らの発想を形にする、はじめての本格的な設計演習です。



小学校の設計

建築設計分野の応用段階の演習として、公共施設の設計に臨みます。地域社会と建築の関係、敷地と周辺の環境、教育のあり方など、多様な検討の結果を一つの建物にまとめ上げる作業を通して設計能力の向上を図ります。



建築・ランドスケープ共同設計

3学年最後に、地域環境の性質に適った土地利用方法を立案する訓練を課します。提案は、建築設計、ランドスケープデザイン、地域計画のいずれれとして作成してもよく、それぞれを志向する学生の協働も奨励します。



卒業研究

社会に不足する情報の収集と解析から、建物や屋外空間の提案まで、研究課題は学生自身が設定します。そして一般の研究、実務と同じく調査、構想、計画、設計、表現の工程を踏んで成果をまとめ、発表・展示を行います。



留学、自主研究活動

デンマーク王立芸術アカデミー建築スクールとの協定に基づき、毎年両校の学生が相互に留学をしています。また、山形市内の蔵の再生など学生の自主研究活動も展開されています。

